

文化情報誌

たわわ

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

2015
AUTUMN
No.96



子どもたちに教えること、
子どもたちから学ぶこと



ホルン奏者 齋藤善彦さん



ホルンに出逢ったきっかけは、高校の吹奏楽部に入部したことでした。元々クラシック音楽ファンだった私は、音色も良く形も独特なホルンにいつしか心奪われ、高校2年生の秋くらいから本格的に習い始めました。

♪♪

子ども文化体験実行委員会へ参加するようになったのは、

主催されている大屋啓子先生が中学生の時の音楽の先生だったことがはじまりです。

私がホルンをやっていることをご存じで、声をかけていただいているからもう十数年お手伝いをしています。

最初は合唱を子どもたちとやるような企画でした。合唱の伴奏に合ういい旋律をホルンに入れてほしいという依頼を受けて関わり始めましたが、合唱からどんどん発展して行って今ではミュージカルも演奏するようになりました。

ミュージカルをやるなら曲のアレンジも、という話になり、アレンジも始めました。

今では、ホルンを吹きながら指揮をしたりして、指導も行っています。

♪♪

使用する楽曲は、元がちゃんとしたオーケストラの曲だったりもするので、アレンジをエレクトーン



演奏会での指揮の様子

の演奏者やそれぞれの専門家に手伝っていただくこともあります。他にも、原曲より短くしたり、やりやすいような工夫をしながら、音楽責任者としての意識のもと、本番を目指します。ミュージカルに関する専門的な指導が出来る大人が毎回全員いるわけではないので、その時々によって私も演技の指導をすることがあったりしますよ。

みんなで作ってみんなで上達、だんだんと出来上がっていく過程を見られるという楽しさがありますね。

♪♪

参加する子どもたちは、長い期間を使ってワークショップをしながら親しんでいきます。ワークショップでは音楽練習や踊りの練習以外にも、工作したり、お料理したり、衣装を作ったり、色々関わっている大人たちでアイデアを出し合い、組み立てます。

例えば、前回の『くるみ割り人形』や今回の『サウンドオブミュージック』に関わりのある国にちなんだ料理を皆で作ったり、その国の文化や言葉も少し教えたりします。子どもたちも音楽だけじゃない文化を学べるし、興味が持続して長い準備期間を楽しく過ごしてくれるんです。

♪♪

音楽の基礎知識がない子どもたちに教えるとなると、かみ



くるみ割り人形的一幕

砕いた説明で指導することになります。そうすると、今まで分かっているつもりでも、実は専門用語でごまかしていたことに気付きました。かみ砕いて説明しようとする意識が芽生えたおかげで、私自身も改めて理解を深めることが出来るようになったことが多いです。そういうことを繰り返して、説明する時の「たとえ」が段々上手くなってきました。共感してもらった時の嬉しさは格別ですね。そういう喜びというのは、普段演奏しているだけでは得られないと思います。

♪♪

現在の私は、演奏活動と指導活動の両輪で成り立っています。支え合って刺激し合う。教えたことは絶対に自分に返ってきて演奏にも反映されるようになる。

そう考えると両方出来ている今は楽しいひと時です。

昔は教えるのがすごく苦手でしたが、今では教えることに意欲が出てきています。

演奏も教えることも、「これで満足」というラインにはなかなかたどり着けないけれども、「あともうちょっと出来たかな」という時の「もうちょっと上」を目指していきたいですね。

日々挑戦、ということで、いつまでたっても完成があるものではないので、諦めずにもっといいものを追い続けたいです。

【プロフィール】

齋藤善彦

(さいとうよしひろ)

高校入学時からホルンを吹き始める。1984年武蔵野音楽大学器楽学科入学。今まで、宮田四郎氏、小沢千尋氏、田中正大氏に師事。

卒業後、東京近郊をはじめ全国のオーケストラのエキストラ出演。

スタジオ録音・室内楽などフリーランスとして活動し、現在に至る。2013年から宮崎国際音楽祭に参加、TAD Wind Symphony (吹奏楽団) メンバー
12月27日 (日) サンライフガーデンにて「教会でゴスペルをうたおう」に出演。(平塚子ども文化体験実行委員会事業)



ひらつかの文化財を知ろう⑦

災害から文化財を守る

文化財の記念日があるのを御存じでしょうか。

昭和24年1月26日に法隆寺金堂から出火し国宝の壁画が焼失しました。昭和30年、この日を国で「文化財防火デー」とし、文化財保護の記念日としました。平塚市でもこの日の前後に消防署と教育委員会で指定重要文化財を巡回し、消防施設を点検しています。



金剛頂寺での消防訓練

また同じ頃には、消防車両が出勤し実際に放水を行う消防訓練を実施しています。昨年度は岡崎の金剛頂寺で行いました。

建造物は木造である場合が多く、防火に対しては十分な備えが必要になります。法律（消防法施行令）では、文化財保護法により重要な文化財として指定された建造物を「防火対象物」とし、消火器具の設置や維持管理が義務



旧横浜ゴム平塚製造所記念館搭屋の避雷針

平塚市には、国、県、市それぞれが指定する文化財があります。日頃触れることの少ない、貴重な文化財について御紹介します。

付けられています。旧横浜ゴム平塚製造所記念館（国登録）は指定文化財ではありませんが、これに準拠した設備を備えています。落雷による火災も避雷針により防ぎます。また、南金目の光明寺本堂内厨子（国指定）には、水を本堂に広範囲に散布する放水銃を境内に設置し火災に備えています。

建造物以外でも下吉沢の木造不動明王立像（がんまん不動国指定）は盗難や火災を防ぐ保存庫に安置されています。

みなさんも見学会や旅行などで文化財に触れた時に、避雷針や放水銃などにも気を留めてみてください。そして文化財をどのように守り後世に伝えていくのか、少しでも考えていただければと思います。

注「国指定」：国指定重要文化財
「国登録」：国登録有形文化財



光明寺の放水銃

姉妹都市提携25周年 ローレンスレポート③

アメリカ・米国カンザス州ローレンス市と平塚市の姉妹都市提携25周年を記念した連載3回目は、ローレンス在住のキャロル・シャンケルさんが「リードセンターのシーズン到来」をレポートします。

ローレンス と言えばココ!

リードセンターのシーズン到来

カンザス大学（KU）リードセンターで、2015年—2016年にかけての芸術プログラムが9月にスタートしました。

まず、ニューヨークの出演者による「ジョセフ・アンド・アメージング・テクニカラー・ドリームコート（注1）」が上演されました。その後、世界中で好評を博す「ポール・テイラーダンスカンパニー」の公演、国際的に著名なバイオリニスト「ベンジャミン・バイルマン」のコンサートが続きました。これらは序盤のプログラムに過ぎず、今シーズン全体では30以上のプログラムが予定されているのです。



「ジャズリーチ」のステージ。
ローレンスの学生向けの特別公演。

来年に入ると、春に「リードセンター友の会」晩さん会と上映会がリードセンター舞台で行われます。「友の会」は財政的支援をするローレンスの地域の人々と、熱狂的なコンサートのリピーターで組織されています。「友の会」がリードセンターに世界クラスの音楽、舞踊、演劇をもたらしているとも言えます。演者の一部は、ローレンスにいる間、KUや公立学校生徒と一緒に仕事をしてくれることもありますよ。

この後もジャズ、室内楽、ソリスト、世界に名だたる男声

合唱団である「英国海兵隊・スコットランド近衛聖歌隊」等が、劇場を活気づけます。

「モスクワ・フェスティバル・バレエ」は「眠れる森の美女」とディズニーの「美女と野獣」を上演し、ブロードウェイもKUにやって来ます。ピアニスト「オルガ・カーン」、チェリスト「サウン・ウン・リー」、そしてアメリカが誇るトランペット奏者「ショーン・ジョーンズ」がKUジャズプログラムの学生による「KUジャズアンサンブル1（注2）」で共演します。



観客席の様子

リードセンターは単なる舞台芸術の上演会場というだけでなく、大学、ローレンス、そしてローレンスアートセンターすべてに魅力的な文化に触れるチャンスをもたらしています。



リードセンター外観

(注1)「エビータ」等を作った作曲家アンドリュー・ロイド・ウェーバーと作詞家ティム・ライスが学生時代製作したミュージカル。

(注2) KUジャズプログラムの学生による合奏団。アンサンブル1は全国の大学の頂点と言われ、ジャズや現代音楽の発表の場として世界をけん引しています。

「史跡の風景」第15回

名族のふるさと 土屋城跡



金目川を見下ろす土屋の丘陵

金目川に沿う県道62号平塚秦野線を西に向かうと、土屋橋を過ぎ秦野市に入るあたりで、左手の方向になだらかな丘陵が目に入ります。大磯丘陵から北に延びるこの尾根には、古代から中世の名族としてその名を知られた土屋氏の本拠地である土屋城があります。



館跡と伝えられる南側の谷

土屋氏は、「中村党」と呼ばれる武士団の一族です。中村党は中井町から相模湾へ流れる中村川の流域を本拠地として、平安時代末から鎌倉時代にかけて相模国西部に地盤を築いていました。12世紀の当主中村宗平には4人の子どもがいたと伝えられます。長男の重平、次男の実平、三男の宗遠、四男の友平は、それぞれ相模国西部の各地に分かれて開発領主となり、居住地の名を名字としました。



宗遠が再興した大乗院は土屋城の中核と想定される

土屋城の始まりは、平安時代の終わりにこの地に住んだ土屋三郎宗遠の居館と考えられます。江戸時代に編纂された『新編相模国風土記稿』は「土屋彌三郎宗遠居蹟」が宗憲寺境内にあったとの伝承を伝えていますが、この時既に「遺形と覚しき所なし」としています。その領域は大乗院の境内を中心とした

一帯が想定されています。また、土屋一族の墓と称される石塔群がある谷が館の故地と伝えられています。有事の際には展望所や詰城として高神山(コウジンヤマ)の字名がある西側の尾根が活用されたと考えられますが、土取り工事によって消滅しており、かつての景観を見ることはできません。

土屋城がある丘陵は金目川を挟んで北側の秦野市大槻の台地と対峙し、秦野盆地と平塚の沖積平野を結ぶ交通路を掌握する要衝です。ここを本拠として周辺の開発を進めた宗遠は、中村党として相模国東部から内陸部の勢力との調整役も担ったと考えられます。土屋からほど近い岡崎に居を構えた三浦一族の岡崎義実には姉妹が嫁ぎ、その次男義清を養子に迎えて三浦氏との連携を強めています。また、吉沢地区に伝えられる「夜泣き石」伝説は、豊田に居を構える鎌倉党の豊田景俊と宗遠との交流が背景となっています。

宗遠は源頼朝の挙兵に際して兄である土肥次郎実平とともに旗上げの当初から頼朝方として参戦し、鎌倉幕府の創建に貢献しました。中村党を率いて主に軍事面で華々しい戦果をあげた兄実平に対し、宗遠は頼朝の側近として近侍し、使者として甲斐国におもむき甲斐源氏の出陣を促すなど、外交や調整に手腕を発揮しています。こうした働きに、交通網と支配権が交差する土屋の地を任された宗遠ならではの、的確な判断力と誠実な人柄を垣間見ることが出来ます。



宗遠は現在も地域の英傑として慕われている

市役所ミニコンサートへようこそ

市役所の1階で、コンサートが開催される日があります。お昼のひととき、市内で活動している音楽家が来庁者の皆様に美しい演奏を披露してくれます。今まで行われたのは、リコーダー、弦楽器、歌やサクソ等で、このコンサートを毎回楽しみにされている方もいるほどの人気です。これからも様々な演奏を皆様にお届けしますので、ぜひ一度足をお運びください。

次回は平成28年1月15日(金) 12時15分からお琴の演奏を予定しています。

【お問い合わせ】

(公財)平塚市まちづくり財団文化事業課(平塚市民センター内)
電話 0463-32-2237



平塚市文化振興基金に御協力を!

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されます。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課までご一報ください。(0463-32-2235)

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方(平成27年4月から平成27年10月(敬称略))

◆湘南新舞踊協会(H27.10.23)

◆湘南ステーションビル(株)
(H27.10.27)

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成27年(2015年)11月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています